

辺野古埋め立て土砂搬出反対ニュース

北九州連絡協議会 <2016年1月4日・No37>

連絡先…森下宏人 090-9495-3902 八記久美子 080-1730-8895



北九州からも多数の参加を 山口にも連絡協議会が発足します 山城博治さんの記念講演もあります

12月28日(月)に山口県庁で、アルゼンチンアリなどの特定外来種について、懇談会が開かれました。北九州連絡協議会から、世話人の大谷・八記が参加しました。山口県からは、複数の地域からの参加がありました。この件については、別の機会に報告しますが、この懇談会の後、山口でも「連絡協議会をつくろう」ということになりました。

合わせて、全国連絡協議会から、沖縄平和センター議長の山城博治さん(映画「戦場ぬ止み」によく出てきた、ハスキーボイスの男性)が来られるという情報が入りました。それならば、ヒロジさんに、山口の発足総会に来ていただくということになり、いま、準備が進んでいます。

今分かっているのは、1月17日(日)15時から山口県周南市で開かれるということです。



沖縄防衛局の資料によると、辺野古を埋め立てるための土砂 2100 万 m³ が、運び出される予定ですが、その 35%が門司地域からとなっています。

資料の地図を見ると、門司地域は、門司の3つの採石工場と、山口県の「向島」と「黒髪島」に印が付いています。そして、この5箇所の採石場は同じ経営者で、本社は門司にあります。

今回、山口県に連絡協議会ができるということは、なんと心強いことでしょう。

是非当日は、北九州からも参加し、たくさんエネルギーをもらってきたいと思っています。詳細はまたお知らせします。

琉球新報・松元剛氏講演会

1月30日(土)13時30分

北九州生涯学習総合センター3階ホール
<<2部>>賛同団体・個人賛同者の交流会

15時30分~16時30分

松元剛さんも参加されます

<<体験お寄せ下さい>>

このニュースをご覧のみなさんで、「名護に行ってきたよ」「高江に行ってきたよ」と言う方が、結構いらっしゃると思います。

良ければ、「原稿 800 時+写真 2 枚」で投稿していただけたら、このミニニュースで、ご紹介したいと思います。

沖縄での基地建設反対の体験を、みんなで共有しましょう。

かしまし娘(?)沖縄に行く

1月5日(火)~1月8日(金)、北九州連絡協議会の「第1回沖縄ツアー」で、4名が沖縄に行きます。参加者は、河野洋子さん・野田恵美さん・藤本修子さん・八記久美子さんです。これまでこのニュースで、ゲート前の座り込みなどご紹介しましたが、今回は大浦湾に舟で出たりします。

現地での様子を、また、ニュースでお知らせしたいと思います。

辺野古のお正月 (沖縄タイムスより)



初日の出を望み参加者が輪になって歌い、踊った=1日8時すぎ、名護市辺野古の浜

名護市辺野古の新基地建設に反対する市民約700人が1日朝、辺野古の浜に集まり、新年行事の「初興し」を開いた。祈願の後、琉球舞踊を奉納。全員が手をつないだダンスやカチャーシーも飛び出し「今年で新基地問題を終わらせる」と誓い合った。

名護市の稲嶺進市長は「基地問題にとどめを刺す年にしたい。ひるまず、とどまらず、力を合わせよう」と呼び掛けた。へり基地反対協の安次富浩共同代表は「今年は大きなヤマ場を迎える。勝ち抜こう」、沖縄平和運動センターの山城博治議長は「政府の弾圧に耐え抜き、必ず夜明けをつくろう」と訴えた。

第三者委員会 桜井国俊さんに聞く

(住民と自治 2016年1月号より) A4・7ページのインタビュー記事の一部を掲載します。

辺野古に作られようとしている新基地は、今後200年使える基地と言われています。必ずといっていいほど海外侵略の拠点となり、戦争に加担、あるいは攻撃の対象となります。

それでは、どのようにして工事を止め、新基地を作らせないか。裁判闘争もありますが、それ以外にも沖縄県知事、名護市長には新基地建設を阻止するための数多くの合法的な手段があります。国の代執行が認められたとしても、埋め立て承認権者はあくまでも県知事だと言うことがポイントです。

岩国基地を海側に拡張する工事でも、8回の設計変更が必要でした。知事は設計変更を承認しないでしょう。国はその度に強権的に代執行手続きを取らねばなりません。

現在、沖縄にある基地の70%は民有地が自治体の土地です。返せといえるのです。しかし、辺野古新基地は埋立地ですから、国有地となります。返せと言うことが出来ないのです。絶対に作らせるわけにはいきません。

埋め立て請願に添付された設計図は、概略設計で本体工事に入るためには実施設計が必要であり、それには、知事との協議が必要です。設計変更の際にも知事との協議を経なければなりません。

理は我が方にあります。国の卑怯なやり方に決して屈しない。あきらめないことこそ肝心です。